日本工業経済新聞　（昭和41年12月14日第三種郵便物認可）

県内情報

県管更生技術協会

クッツバ工法など紹介
官公庁向けに見学会開く

横島理事長

横島理事

官公庁職員など約60人が参加

開削しない老朽管更生工法の普及活動を展開している、県管更生技術協会（横島久子理事長）は6月30日と7月1日、下水管渠の更生見学会を横島エンジニアリング（常総市）で開催した。県や市町村の下水道事業担当者、コンサルタント業者など両日合わせて約60人が参加。

はじめに横島会長は「これからスルーリング工法、SWライナー工法、クッツバ工法の3種類を主に紹介させていただく。休憩時間にはエアハート工法のデモ施工もあるので見学いただければ。今後、研修会も開催していきたいと考えているので、よろしくお願いしたい」とあいさつ。

その後、横島康弘理事が、管内洗浄・前処理、穿孔、取付管更生（クッツバ工法）、本管更生（スルーリング工法・SWライナー工法）などを、自走式テレビカメラの映像を交えながら解説した。

クッツバ工法は、本管と取付管の接続部を樹脂を使って一体化させるもので、継ぎ目からの進入水を防ぐことができる。

スルーリング工法は、老朽化した管渠内に熱硬化性の樹脂を含ませた管状不織布からなる材料を入れたあと、温水で加熱硬化させ、本管を非開削で更生する。

また、SWライナー工法は、硬質塩化ビニル製の帯板をらせん状に巻き立てて製管し、既設管とのすき間に充填剤を入れる工法。